

平成30年6月4日現在

機関番号：12301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26463564

研究課題名(和文) 行政保健師の地区マネジメントの解明及び地区マネジメント向上方法の開発

研究課題名(英文) clarification and development of district management by public health nurses

研究代表者

石川 麻衣 (ISHIKAWA, Mai)

群馬大学・大学院保健学研究科・准教授

研究者番号：20344971

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、行政保健師のマネジメントとはどのようなものか、またどのように発展させればよいかを明らかにすることである。

研究の結果、行政保健師の地区マネジメントは、地区への責任を基盤とした活動ビジョンの描き、目的に基づく活動範囲の見定め、状況に合わせた活動プロセスのマネジメント、地区に出向く役割に基づくマネジメント、ケースマネジメントから地区マネジメントへの広がり、住民との協働活動のマネジメント、組織内のマネジメントによって説明されるものであった。

研究成果の概要(英文)：Public health nurses develop an overall image that is best suited to a district based on the responsibilities for the district in which they are in charge, and provide management for the implementation of high-quality activities in the district that work toward matching the image in order to achieve results.

The purpose of this study was to clarify and develop about district management by public health nurses.

District management by public health nurses was shown as a conceptual model consisting of the following 7 groups: intraorganizational management, management based on roles out in the district, management in collaboration with local residents, district management that grows from case management, management of activity processes in situations where it is difficult to go out into the community.

研究分野：公衆衛生看護学

キーワード：地区マネジメント 公衆衛生看護管理 地区管理 行政保健師 地区活動

## 1. 研究開始当初の背景

地区活動とは、一定の地区内に住むすべての人の健康生活に責任をもつ立場から地域社会における集団生活に対して行う行政保健師固有の看護活動であり、地区診断に基づく地区活動計画の立案、実施、評価のプロセスが含まれる。我が国の保健師は、長らく、各保健師が一定地区を分担して受け持つ地区担当制のもと、地区活動を実施してきた。しかし、近年、地域住民のニーズの多様化・高度化への対応として、保健師の活動分野は保健分野から福祉、介護、健康保険などに拡大した。これに伴い、活動形態は地区担当制中心から業務担当制への移行が進んだ。

このような時代の流れに対し、2007年、市町村保健活動の再構築に関する検討会報告書で、「地域での活動が保健師の中核業務」とであると、地区活動を中心に据えた業務再構築が提言された。また、地区活動のあり方とその推進体制に関する検討会報告書(2008年)では、地区活動を「保健師活動の使命を果たす最適手法である」とし、改めて、地区活動が保健師活動の中核であることが示された。

上記提言の背景には、保健師の地区活動の機能の低下という課題があり、これまで、地域診断の手法や能力形成に関する研究、教育プログラム開発が数多く実施されている。その中で、高橋他は、地域診断の必要性について93%が感じている一方で、地域診断の取り組みには84%が困難を感じていると報告している。困難を感じる理由には、時間やマンパワーの不足、作業量が膨大といった作業への負担感が多く挙げられていた。また、地区診断が非日常的な業務と捉えられていたという報告もある。これらは、地区活動におけるマネジメントの課題といえる。

これに関連して、筆者は、平成22年度からA県内保健師現任研修の企画・実施・評価に関わっている。この中で、新任及び中堅保健師に共通する課題として、担当業務全般における担当地区への活動の位置付けが不明確であることや、日常業務の中でどのように地区に関わり、地区の目指す姿へと導いていこうとしているかの方針が決定していないことがあると強く感じた。これらは、地区診断及び地区活動計画立案・実施・評価の技術に関する課題というよりも、むしろ、地区マネジメントの考え方が根付いていないという課題であった。これらのことから、保健師の地区活動の機能向上を図るためには、地区マネジメントを向上させる必要があると考えるに至った。

マネジメントは、一般的に、一定の目的を効果的に実現するために、人的・物的諸要素を適切に結合し、その作用・運営を操作・指導する機能もしくは方法を指す。2001年に閣議決定された「今後の経済財政運営及び経済社会の構造改革に関する基本方針」により、公共部門に企業経営的な手法を導入し、より

効率的で質の高い行政サービスの提供を目指すこととなり、行政保健師の活動もこの影響を受けている。2012年に改定された「地域における保健師の保健活動に関する指針」では、地域診断に基づくPDCAサイクルの実施が推奨されており、地区活動の実施において、マネジメントの視点を取り入れることが求められている。

公衆衛生看護管理は、2005年、日本看護協会により「保健師が地域で生活する全ての人々を対象とし関係者と協働して行う地域保健活動の目的を達成するために行う地区(地域)管理機能を中核とし、これを円滑に遂行するために行うすべての管理機能の総称」として、地区管理、事例管理、事業・業務管理等の8機能からなり、新任期であっても全ての管理機能を担うと提唱された。つまり、地区をマネジメントするためには、地区管理に限らず、その他の管理能力が必要になる。また、中板は、エリアマネージャーとして地区管理に責任を持つ保健師の役割を提唱し、包括的な地区診断やエリア内のサポートネットワーク構築の機能について言及した。

このように、地区をマネジメントするという考え方は提唱されているものの、学術的概念として示されていない。しかし、これら先行文献を参考に、地区マネジメントを「地区への責任を基盤に地区全体のあるべき姿を描き、その実現に向かって地区活動を質の高い活動として実施し、成果を上げるために行われる一連の取り組み」として捉え、解明することができると思う。

これまで、委託業務に関する保健師のマネジメントに関する研究、事例管理に着目した教育プログラムの開発、地域づくりにおいて保健師が発揮したマネジメント能力に関する研究が行われている。しかし、これらは活動を単位としたマネジメントであり、事業・業務管理にあたる内容である。地区マネジメントについては実態調査も存在せず、解明が進んでいない現状がある。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、行政保健師の地区マネジメントを解明し、行政保健師の地区マネジメントを向上させる方法を開発することである。

## 3. 研究の方法

### (1)文献調査

行政保健師の地区活動及びマネジメントに関する文献をもとに、地区マネジメントの目的、成果、構成概念を分析した。

公衆衛生看護学の教科書から、「公衆衛生看護管理」および「地区管理」についての記述を抜粋し、地区管理の定義及び説明内容について、比較検討した。

また、保健師が実施した地区活動の内容が具体的に読み取れる文献を選定し、文献中の地区マネジメントの事象を分析した。

## (2)保健師の実践経験に基づく地区マネジメントの捉えに関するグループインタビュー

保健師の実践経験に基づく地区マネジメントの捉えを明らかにするため、地区活動の経験豊富な保健師 10 名を対象に、グループインタビュー調査を実施した。A 県看護協会保健師職能委員のネットワークをとおりて研究対象者を募った。

インタビューでは、地区マネジメントについて自分の実践経験を振り返りながら、グループ内で自由に語ってもらった。逐語録から、地区マネジメントとしての語りの意味をコードとして抽出し、質的帰納的に分析した。

## (3)地区マネジメント向上に関する人材育成の現状と課題の実態調査

行政保健師の地区マネジメント能力を高めるためにどのような人材育成が必要か、市町村保健師の置かれている現状と課題から明らかにすることを目的に、A 県内の市町村で統括的な立場の保健師に対し、グループインタビューを実施した。逐語録を作成し、これを、KJ 法を用い分析した。

## (4)行政保健師の地区マネジメントを説明する概念の解明

行政保健師の地区マネジメントを説明する概念を構造的に解明するため、上記調査(2)及び(3)結果の分析を統合し、さらに検証を行うために追加調査を実施した。上記調査(2)のデータを、山浦の開発した質的統合法(KJ法)により再分析を行った。インタビューの逐語録から、地区マネジメントに関する思い・考えが含まれた記述を抽出し、元ラベルを作成した。データの主張する内容の類似性に着目してラベルのグループ編成を繰り返し、最終的に統合されたグループの内容を特徴的に表すシンボルマークをつけた。

さらに、4 市町の保健師に対し、地域性を意識した保健師活動に関するインタビュー調査を行った。4 か所の自治体の保健師活動が、再分析で得られた概念で説明できるかを検討することで、シンボルマークの妥当性を検証した。

## (5)地区マネジメント向上方法の検討

行政保健師を対象とした研修会において、研究成果をもとに講義およびグループワークを行い、研修の成果から地区マネジメントを向上させる方法を検討した。参加者の研修時の反応や、実施後アンケートの記載内容をもとに、研修会企画者の保健師と研究者で、地区マネジメント向上方法を検討した。

## 4. 研究成果

### (1)文献調査

公衆衛生看護の教科書を比較検討した結果、一部に、地区活動と地区管理を同一視している記述も存在した。しかし、地区マネジ

メントは、「地区への責任を基盤に地区全体のあるべき姿を描き、その実現に向かって地区活動を質の高い活動として実施し、成果を上げるために行われる一連の取り組み」であり、「一連の地区活動の過程を繰り返しながら、地区で生活するすべての人が健康的な生活を維持・向上できるように受け持ち地域を変化させるしくみを構築するために、地区内外に向けて保健師によって発揮される機能」として、地区マネジメントと地区活動との関係を整理できた。

保健師が実施した地区活動の実践事例における地区マネジメントの事象分析では、看護管理活動の3つの活動である、ケアのマネジメント、ケアの看護サービスとしての組織化、ケアの政策的観点からの発展、の観点で、状況・出来事、保健師の支援、保健師の認識に関する記述を抽出し、そこから地区活動に含まれる地区マネジメントの意味を分類整理した。その結果、

ケアのマネジメント：地区の生活実態や文化、今後地区で発生が予測される課題、地区全体のニーズ充足の達成度、住民が重視していることなど、地区の情報把握をすることで、今後のケアの方策を見出ししていた。その際、地域住民の声からニーズを把握することが共通して重視されていた。

ケアの看護サービスとしての組織化：サービスの組織化として、住民や保健福祉機関とのネットワーク形成、行政組織内部の住民支援体制づくり、複数事業を連動させた活動展開があった。これらをとおりて、コミュニティ・エンパワメントを促進していた。

ケアの政策的観点からの発展：地区内への活動の定着、地域全体への活動拡大、そして、地域全体の活動目標達成につながるような地区の活動の構造転換が確認された。ケアを発展させるための方策として、組織体制調整や国のモデル事業申請などにより活動への新たな支援を確保することと、自治体の基本理念を踏まえ保健師活動の方向性やビジョンを示し、その中に地区での活動を位置づけることが含まれていた。

## (2)保健師の実践経験に基づく地区マネジメントの捉えに関するグループインタビュー

研究対象者の所属は、保健所保健師 3 名、市町村保健師 5 名、その他 2 名であった。インタビューの結果、行政保健師の地区マネジメントに関する捉えは、地区マネジメントの捉え、地区の捉え、住民の捉え、時代の変化に応じた保健師活動の変化、地区マネジメント能力の育成の 5 つに大別された(表)。

マネジメントの意味として、「地区のニーズをアセスメントし、関係機関と共に、住民の主体性を尊重しながら解決に導いていくのを支援する役割」「ニーズ把握からはじまり、ニーズが見えてきたらニーズとビジョンとのギャップをどう埋めていくか考え、住民と一緒に主体に活動していけるようなやり

表：行政保健師の地区マネジメントに関する捉え

地区マネジメントに関する行政保健師の捉え	コード
地区マネジメントの意味	<ul style="list-style-type: none"> <li>地区のニーズをアセスメントし、関係機関と共に、住民の主体性を尊重しながら解決に導いていくのを支援する役割</li> <li>ニーズ把握からはじまり、ニーズが見えてきたらニーズとビジョンとのギャップをどう埋めていくか考え、住民と一緒に主体に活動していけるようなやり方を生み出していき、これを、日常的に実施できるよう、たとえ住民と距離があってもできるやり方や仕組みを作っていくこと</li> <li>基本に則ること</li> </ul>
ビジョンを描く	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分ができることをビジョンとして描く</li> <li>保健師のビジョンと住民のビジョンを合わせていく</li> <li>保健師と市町村保健師で同じビジョンを持つ</li> </ul>
マネジメントの責任範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>地区への責任が基盤になる</li> <li>仕事に対する責任</li> <li>個別支援の際の個に対する責任</li> <li>活動範囲を自分で考える</li> <li>責任感を持つことで支援が確実になる</li> <li>自分の地区と思うことで仕事の仕方が定まる</li> </ul>
活動の視点でマネジメントする	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業の枠を超えた活動の視点でマネジメントする</li> </ul>
チームでの活動をマネジメントする	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健師の限界を他者との協力で補う</li> <li>事務職のマネジメントを学ぶ</li> <li>チームの理解・協力を得る経験を通してマネジメントのスキルを身に着ける</li> <li>組織をマネジメントする</li> </ul>
地区の捉え	<ul style="list-style-type: none"> <li>地区に出ることは保健師の機能であり技術である</li> <li>地区を広くとらえる</li> <li>地区に向き感じとすることで気持ちえらられる</li> <li>肌で感じる機会が減るとマネジメントが難しくなる</li> </ul>
地区との接点の持ち方	<ul style="list-style-type: none"> <li>地区に向き合える機会を活用する</li> <li>住民との距離感を保つ</li> <li>地区に入れない現状</li> <li>自分の肌でニーズをつかむための感性を保持</li> </ul>
地区のニーズや課題を分析する	<ul style="list-style-type: none"> <li>個の課題の分析と量的データの分析をすり合わせて分析する</li> <li>分析に保健師の視点が出る</li> </ul>
住民の捉え	<ul style="list-style-type: none"> <li>住民の力を活用できる地域対策が進む</li> <li>住民だからその知識やビジョンがある</li> <li>住民から湧き出るような活動ができる</li> <li>ある世帯への支援を一緒に考えたらうと、それが地域住民の相互協力による課題解決につながる</li> <li>住民自身の力を存在を信じ、引き出す</li> <li>ある地域が変化すると、その効果が別の地域に波及する</li> <li>地域の効果が出るまで待ったり、積極的に働きかけたりを使いわけ</li> <li>既存の住民意識や発想を変えていくためにマネジメントする</li> </ul>
時代の変化に応じた保健師活動の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務に負われているという実感があがる</li> <li>制度が変化する中で、保健師の活動方法の変化に応じる</li> </ul>
地区マネジメント能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健師同士で経験を積み重ねることでマネジメント力が付く</li> <li>能力育成のためには管理職の調整が必要</li> <li>新しい活動を伝えるために共有の機会をつくる</li> </ul>

方を生み出していく。これを、日常的に実施できるよう、たとえ住民と距離があってもできるやり方や仕組みを作っていくこと」「基本に則ること」ことが挙げられた。地区マネジメントを行う基盤には、住民個々・仕事・地域に対する責任感があった。また、活動が良い方向に進むときには、地区をどうしていきたいかについて保健師のビジョンが存在した。

「地区に出ることは保健師の機能でありまた技術である」ことから、「自分の肌でニーズを掴むための感性や地区との適切な距離感を保つ必要がある」と考えていた。「住民が持つ力を信じ、住民がもつ地域のビジョンや住民なりの知識を活用することで住民の潜在能力を引き出し、地域の変化を誘発」していた。

また、「制度の変化に伴い保健師の活動方法も変化していることから、この変化に応じていく」ことがマネジメントの意義として語られた。「地区に向き合える機会が減少しているため、個の課題の分析と量的データの分析をすり合わせて分析することで対応しており、その分析の過程で保健師の視点が出る」と考えていた。

保健師個人の限界については、「他者との協力で補ったり、事務職からマネジメントを学んだりして対応」していた。さらに、「保健師同士で経験を積み重ねることで地区マネジメント力がつくため、新任保健師に対する管理職の調整や活動の共有が必要」であることが語られた。

本調査により、行政保健師の地区マネジメントは、地区のニーズに合致した活動を住民

とともに地区につくり出す活動であると同時に、制度の変化や保健師活動の変化に応じて保健師自身のこれまでの地区へのかかわり方や地区分析の方法を変えていく活動であることが明らかになった。

### (3) 地区マネジメント向上に関する人材育成の現状と課題の実態調査

研究参加者は 17 名の保健師であった。参加者の発言から、人材育成の現状と課題に関する全体像(図 1)を作成し、ここから以下 4 点の示唆を得た。

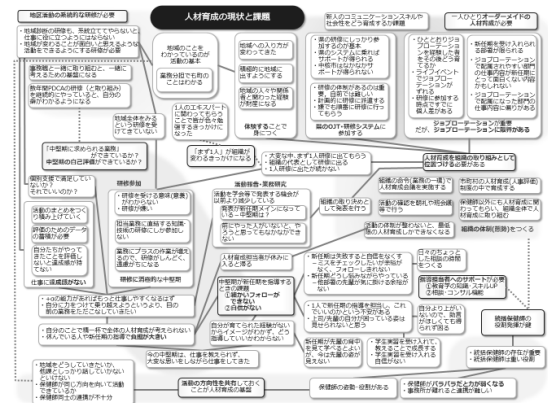


図 1 人材育成の現状と課題に関する全体像

人材育成を組織の取り組みとして位置づけ、一人ひとりの保健師にオーダーメイドの人材育成を展開するために、指導担当者へのサポート体制を整えるなど、組織の体制を作る必要がある。

地域をどうしていきたいかについて、保健師の活動の方向性を、他部署を含めた保健師全体で共有しておくことが人材育成の基盤になる。

新たな能力を身に着けることで現状の課題を乗り越えようと思えるよう、地区活動の取り組みについて自己評価できるようにする必要があります。

新任から地域に出る機会を作り体験することで地区活動の方法を身に付けていくことと、地区活動の系統的な研修の両方が必要である。

地区活動の系統的な研修については、単年ではなく数年間取り組むことで能力が育成されることや、事務職なども含め、一人ではなく複数で一緒に考えながら取り組むことの有効性が挙げられた。また、人材育成の組織体制づくりや市町村保健師の方向性の共有などにおいては、統括(的)保健師の役割発揮が重要であるとの示唆を得た。

### (4) 行政保健師の地区マネジメントを説明する概念の解明

元ラベルの総ラベル数は 53 枚であり、グループ化を行った結果、最終ラベル 7 枚に集約された。文章中のシンボルマークは、最終ラベルは【】で示す。

地区への責任を基盤とした活動ビジョンの描き：このシンボルマークは、最終ラベル【制度や体制が変わり、ニーズ把握や住民との共有プロセスが変化し、個々の課題から地域の課題を見出す際に以前のやり方にこだわるとできなかつたり、しんどくなつたりする。たとえ地区を担当する体制でなくとも、地区への責任を基盤にするという考え方を大事にして自分の地区を定めていくと、住民の暮らしを見据え、自分にどんなことができるかのビジョンを描くようになる。】から導かれた。

行政保健師は、時代が進み制度や体制などの活動基盤が変わったことで、地区の課題をアセスメントする方法が変化したことを感じ取っていた。しかし、地区への責任を基盤に据えることは時代が移っても不変であり、それによって活動の展望を描くことから地区マネジメントがはじまると捉えていた。

目的に基づく活動範囲の見定め：このシンボルマークは、【より広く大きい視点でコーディネートを行うことができるよう、担当地区や担当事業の枠にとらわれず、支援の目的を明確にして、想像力を働かせながら支援を考えていくことで、保健師としての責任が果たせるようになる。】という最終ラベルから得られた。

自分の担当業務における支援の目的は何かを明確化することで、

状況に合わせた活動プロセスのマネジメント：これは、【昔と違い今は地区に出ることが難しいので、データの量的分析と代表的なケースの分析を合わせてニーズをアセスメントし、地域の課題を明らかにしていくことが大事になる。その際、住民や関係機関と課題を共有し、ニーズを検証する必要がある。ニーズを明確化できたら、ニーズとビジョンとのギャップをどう埋めていくか考え、住民主体で住民と距離があっても継続的に解決に向かうやり方や仕組みを、保健師の専門的知識と住民の生活力それぞれの良さを生かしながら住民と共に作っていく。】という最終ラベルから得られたシンボルマークである。

ケースマネジメントから地区マネジメントへの広がり：このシンボルマークの最終ラベルは、【仕事への責任意識が薄れていたとしても、ケースが困っていたら何とかしないといけないと感じ、周りに働きかける。すると、他の住民も付き合ってくれ、次第に見守り体制や住みやすい地域づくりにつながっていく。地域が変化すると他の地域にも効果が波及していく。このような地域との協働が1回でもできると保健師が変わり地区への責任性も育まれるが、組織の中の制約により、若い保健師が経験する機会を作れないことがある。そこで、いい活動をしている人の活動を共有できる機会を作るなどの人材育成ができることよ。】であった。

住民との協働活動のマネジメント：こ

のシンボルマークは、【住民がビジョンを描けているときはそのビジョンに乗り、どう活かすかをマネジメントしていくが、そうでないときは住民の既存意識を新たな発想に変えていけるよう、住民の気持ちがどこに向いているか見ながら、地域の情報や課題を住民と共有する中で、住民が自分や地域の課題や地域に気付けることを信じて待ったり仕掛けたりする。住民が必要を感じたら、住民でできる形で活動を開始する。保健師と住民それぞれが地域に描くビジョンが合致していたらうまくいくが、合致しないときは共通点やできそうなことからやっていく。活動の効果と重要性を自覚できるよう、住民との距離感を保ちながら継続的なサポートを提供する。】という最終ラベルから得られた。

このシンボルマークは、行政保健師の地区活動と住民の活動との関係を見定めながら、それぞれの活動が協働活動に発展するようマネジメントをする、という認識を表していた。

地区に出向く役割に基づくマネジメント：このシンボルマークの最終ラベルは、【保健師は地域に出てニーズや活動の手応えや気づきを得る役割があるが、担当の変化や事業に追われるようになり地区に出向く機会確保ができなくなってきており、その結果、地区活動のマネジメントを難しいと感じるようになった。そのため、協働の相手を考えたり、機会を逃さないようアンテナをはるなど、地区に出て住民との接点を持つ場をみる視点や場を活用する技術を駆使したマネジメントが重要になる。】であった。

組織内のマネジメント：このシンボルマークの最終ラベルは、【地区のマネジメントと一緒に組織内のマネジメントが必要である。事務職などのマネジメントをみて学び活かしながら、自分が実施したいマネジメント活動をチームメンバーや上司へ説明し、地区に関わる様々な立場の保健師と一緒に考え、ビジョンを一致させていくことで、いい活動ができるようになる。】であった。

行政保健師は、より質の高い地区活動を展開するためには、地区に向けたマネジメントと合わせて所属組織内に向けたマネジメントが必要であると認識していた。

行政保健師の地区マネジメントは、地区への責任を基盤とした活動ビジョンの描きと目的に基づく活動範囲の見定めをもとに状況に合わせた活動プロセスのマネジメントが行われるものであった。また、地区マネジメントは、地区に出向く役割に基づくマネジメントでもあり、これを基盤に、ケースマネジメントから地区マネジメントへの広がり住民との協働活動のマネジメントが行われるものであった。マネジメントは、地区に対してだけでなく、組織内のマネジメントも指向されるものであることが明らかとなった。

4市町の活動を検討した結果、上記7つの

シンボルマークを概念として用いることで、保健師の活動を地区マネジメントとして説明することが可能であることが確認できた。

#### (5)地区マネジメント向上方法の検討

研修会は、研修会主催保健師と相談のうえ、「保健師活動における「記録」とは？～記録の基本と訪問記録の書き方～」をテーマに、保健師の情報伝達手段・コミュニケーション手段としての記録スキルを向上させることで、PDCA サイクルに基づく地区活動の向上を目指すという目的で行われた。参加者は 31 名であり、市町村保健師が 44%、また新任期が 44%であった。アンケートの回答を分析した結果、であった。市町村保健師

研修では、訪問記録のように、日ごろ「時間がかかる」「書き方がわからない」等情報管理の課題として自覚していたことを、さらに地区マネジメントとの関連を意識することで、訪問活動プロセス全体の見直しの必要性を意識した、という成果が確認できた。このように、日常の活動から感じた具体的な課題と地区マネジメントとの関係を意識することが、地区マネジメント向上に有用である可能性が示唆された。

#### <引用文献>

高橋美美他：保健師の地域診断実践に影響する要因に関する研究. 高知大学学術研究報告 医学・看護学編, 56, 21-29, 2007.

佐伯和子他：保健活動における地域の看護アセスメントの課題-保健婦の認識を通して, 日本地域看護学会誌, 3(1), 142-149, 2001.

社団法人日本看護協会：保健師に求められる看護管理のあり方 地域保健における看護管理の概念整理, 平成 15 年度・16 年度保健師に求められる看護管理のあり方検討小委員会報告書, 2005.

中板育美：エリアマネージャーとサービスマネージャーの重層的地区活動の提案. 保健師ジャーナル, 65(10), 2009.

石川志麻他：市町村保健師の委託事業を利用したマネジメント行為の特徴. 千葉看護学会誌, 18(1), 77-85, 2012.

水口真弓他：保健所保健師の現任教育(職場内研修)を考える～事例管理に着目した教育プログラムを導入して～北海道公衆衛生学雑誌, 21(2), 158-165, 2008.

両羽美穂子：地域づくりにおける保健師のマネジメント能力の開発・発展過程～研究者と実践者の協働的アプローチより～. 千葉看護学会会誌 16(1) 45-52, 2010.

山浦晴男：質的統合法入門 考え方と手順, 医学書院, 2012

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 0 件)

[学会発表](計 2 件)

石川麻衣, 小澤若菜, 川本美香, 時長美希: 地区活動の質を高めるために必要な地区マネジメントに関する行政保健師の捉え. 第 19 回日本地域看護学会学術集会, 2016.

Mai Ishikawa, Nobuyo Ueda, Mika Kawamoto, Wakana Ozawa, Miki Tokinaga: Framework for elucidation of regional management by public health nurses working for local governments in Japan. East Asian Forum of Nursing Scholars 19th International Conference, 2016.

[図書](計 0 件)

[産業財産権]

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

[その他]

なし

#### 6. 研究組織

##### (1)研究代表者

石川 麻衣 (ISHIKAWA Mai)

群馬大学・大学院保健学研究科・准教授  
研究者番号: 20344971

##### (2)研究分担者

時長 美希 (TOKINAGA Miki)

高知県立大学・看護学部・教授  
研究者番号: 00163965

小澤 若菜 (OZAWA Wakana)

高知県立大学・看護学部・講師  
研究者番号: 90584334

川本 美香 (KAWAMOTO Mika)

高知県立大学・看護学部・助教  
研究者番号: 10633703

上田 修代 (KAWAMOTO Mika)

東京慈恵医科大学・医学部・講師  
研究者番号: 40637526

##### (3)連携研究者

なし

##### (4)研究協力者

なし